

2026年2月8日(日) 第二礼拝「私の主の祈り」マタイ6章9～15節

イエス様は主の祈りで「天にいます、私たちの父よ」と祈られました。神様を「わたしの父」と呼ばれていたイエス様の復活後の第一メッセージは、「わたしの兄弟たちのところに行き、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る』と告げなさい。」でした。「わたしの父」から「あなたの父」になるため、つまり、私たちが神の子どもとなるために、イエス様はこの地に来られ、十字架で死に、よみがえられたのです。ですから、私たちは神様と父と子の関係になり、「イエス様の父よ、私(自分の名前)の父よ」と祈ることができ、親密な関係を築くことができるのです。

「御名があがめられますように」イエス様は十字架で苦しみを受け、私たちに御名を与えてくださいました。主の御名は、身代わりの主、癒し主、勝利の主、羊飼いなる主、平和の主、義なる主、いのちであり、よみがえりの主など様々です。

「御国が来ますように」私たちの古い家に御国が来ると、新しくなります。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って…すべてが新しくなりました。」(Iコリント 5:17) 主の御前でへりくだるなら、御国が訪れます。

「御心が天になるごとく、地にもなりますように」天国には設計図があり、神様が設計者です。すべてを神様に委ねる時、はるかに素晴らしい人生を神様が設計してくださいます。

「日曜の糧」とは、自分に必要なものです。霊的な糧、肉体に必要な糧、御言葉に対する信仰、健康、知恵、勇気、関係回復など、自分の必要のために具体的に祈ることが大切です。

「罪の赦しの祈り」神様がイエス様を通して与えられたのは、赦しです。あるしもべが王から一万タラント(十八万年の労働賃金)の借りを赦してもらった話があります(マタイ 18章)。これは永遠の赦しを表します。しかし、そのしもべは百デナリ(三か月の賃金)の借りのある仲間を赦さず、牢に入れました。その一部始終を聞いた王は怒り、そのしもべを牢に入れました。しもべが赦されたように、仲間を憐れみ赦すことが王の願いでした。永遠の赦しを受けたにも関わらず、他人を赦さないなら、自分も赦されず、天国に入れないのです。

「試みにあわせず」私たちに傷、怒り、妬み、不平不満がある時、霊は傷を受け、黒い煙が出ます。そこから悪霊が入り、心を支配し、相手を赦すことができなくなります。ですから、なるべく早く悔い改め、相手を赦す心を主に求め、試みに落ちないようにしましょう。

「悪より救い出したまえ」悪霊は盗んだり、殺したり、滅ぼしたりします。ある人が交通事故に遭い、車内に閉じ込められ、車上には悪霊が座っていたそうです。その妻が祈っていると、黄金の光が天に繋がり、天使が現れ、斧で悪霊を切りました。悪霊は黒い煙を出して消え、車内の人は救出されました。同様に私たちが祈るなら、天使が動きます。友人牧師が、この教会の二倍の大きさの天使が降りて来て、斧で悪霊を断ち切るのを見たそうです。私たちが礼拝し、祈り続けるなら、助けの天使が降りて来て、教会に永住し、リバイバルすると信じます。「国と力と栄えとは主のものです」祈り続け、豊かに実を結ぶ者となりましょう。